



特集

work & my life

アトピー性皮膚炎の痒みが「ゼロ」になる体感が、仕事もプライベートも変えてくれた。



アトピー性皮膚炎に新しいコミュニケーションと融合を作っていこう。

[アンド]

vol.2



スマホをかざすと動画が観られます。

※詳しくはP2をご覧ください。



SAJP.DUP.19.01.0148  
2019年2月作成

サノフィ株式会社















# アトピー性皮膚炎の患者さんと医師のギャップ調査

## “医師に伝えること”と“改善すること”とに密接な関係

### 医師と患者さんの間にある認識のギャップを調査

2017年8月に調査パネルとして登録されている患者さんと医師を対象に、インターネットによるアンケート調査を実施しました。



調査に参加した患者さん

- 調査に参加する1週間前の段階で、アトピー性皮膚炎の皮疹があった
  - 現在、アトピー性皮膚炎の治療のために医療機関に通院している
  - ステロイドを塗っている(または塗った経験がある)
- 上記の3つの条件全てに当てはまっている患者さんです。



調査に参加した医師

- 調査に参加する前の1ヶ月間で中等症以上の15歳以上のアトピー性患者さんを10名以上診療している病院に勤務している医師
  - 調査に参加する前の1ヶ月間で中等症以上の成人(15歳以上)のアトピー性患者さんを20名以上治療しているクリニックを開業している医師
- 上記のどちらかの条件に当てはまる医師です。

### 調査した内容

以下の内容について、アトピー性皮膚炎の患者さんと医師の両方に調査しました。

- アトピー性皮膚炎の重症度はどのくらいか?
- アトピー性皮膚炎による生活の質や精神面への影響
- 治療の満足度
- 治療についての確認や説明の十分さ

中原剛士ほか. 日本皮膚科学会雑誌 2018;128(13):2843-2855

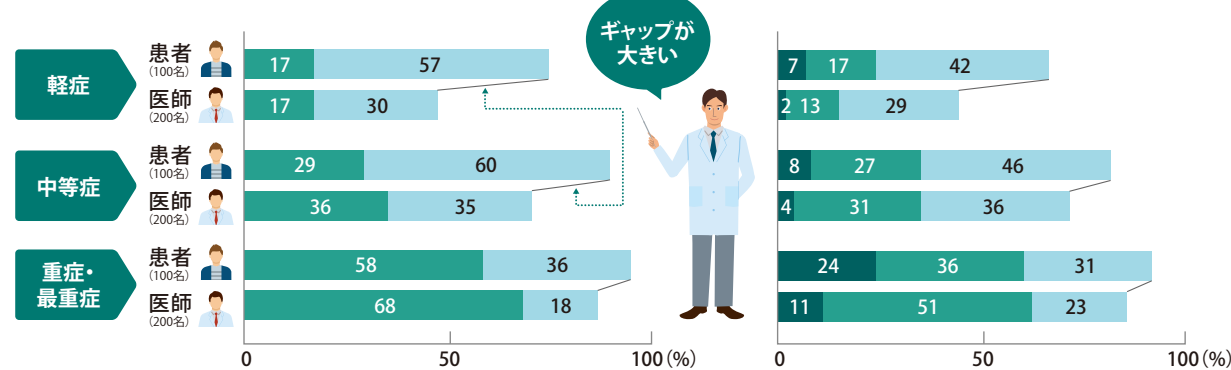
## 1. アトピー性皮膚炎が患者さんの生活の質や精神面にどのくらい影響しているかについての医師と患者さんのギャップ

### 生活の質(QOL)への影響

- 非常に影響がある/非常に影響があると思う
- やや影響がある/やや影響があると思う

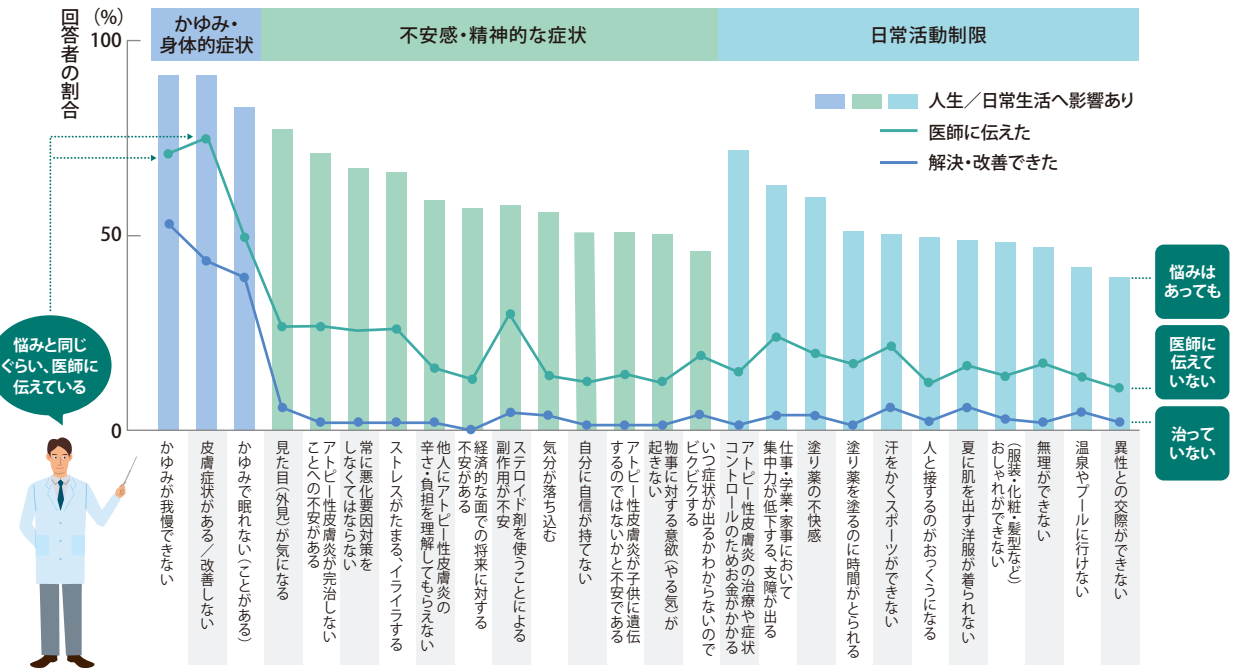
### 精神面への影響

- 死んでしまいたいと思ったことがある/そう思ったことがあると思う
- 非常に影響がある/非常に影響があると思う
- やや影響がある/やや影響があると思う



患者さんがアトピー性皮膚炎は生活に「非常に影響がある」または「やや影響がある」と回答した割合は、医師が「非常に影響がある」または「やや影響がある」と推測して回答した割合よりも高い結果となりました。医師と患者さんの生活への影響に対する認識の差は、軽症や中等症患者さんで大きいという傾向もありました。

## 2. アトピー性皮膚炎による日常生活への様々な影響を、医師に伝えた患者さんの割合と改善した患者さんの割合との関係



悩みと同じくらい、医師に伝えている

悩みはあっても  
医師に伝えている  
治っていない

### 身体的症状だけでなく、日常生活における悩みなども医師に相談してみることが解決への第一歩

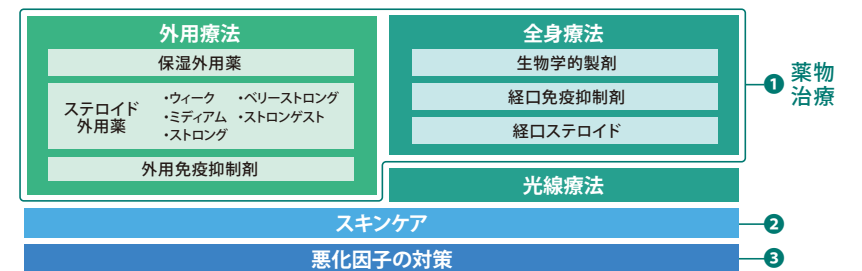
今回の調査結果を見ると、かゆみなどのアトピー性皮膚炎によって直接的に現れる症状については、多くの患者さんが医師に伝えて、問題を解決していることがわかります。一方で、「ストレスがたまる、イライラする」などの精神的な問題はほとんどの患者さんが医師に伝えておらず、そのため解決・改善できたと回答した患者さんも数名と非常に少ない結果となっています。ここで重要なのは、「なぜ、患者さんが皮膚症状は医師に伝えられるのに、精神的な問題は相談できないのか?」ということです。もし、患者さんが「直接的な症状以外は医師に相談することではない」と考えているようなら、ぜひ、その垣根を取り払い、伝えることが改善のためには重要であることを知って欲しいです。



九州大学病院 皮膚科 准教授 中原 剛士 先生

### 〈トピック〉

アトピー性皮膚炎の治療は、①薬物治療、②スキンケア、③症状を悪化させる要因への対策、という3本柱が基本となります。薬物療法にも様々な選択肢がありますので、医師とどんな治療が症状や生活スタイルに合っているかを話し合ってみましょう。

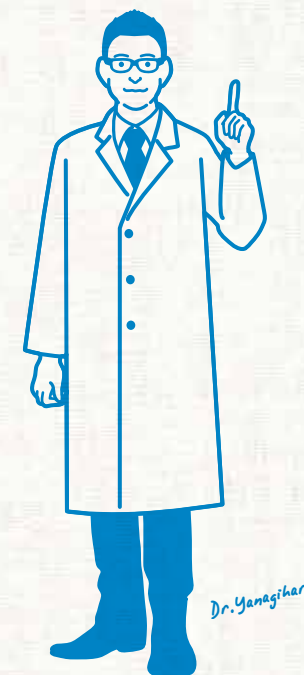


## これからを、変える。 コミュニケーションカード

こちらのカードに記入して先生にお渡しください。  
言葉では言いにくいことも、しっかり伝わります。



# one-point lesson about care

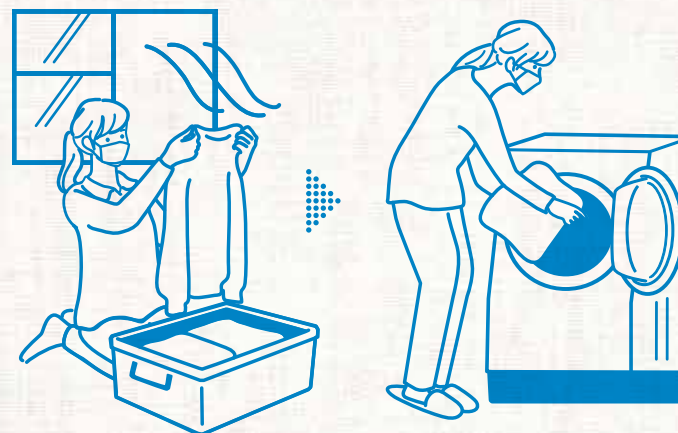


## ご存知ですか？ 衣替えとアトピー性皮膚炎の関係

監修：柳原 茂人 先生（近畿大学 医学部 皮膚科学教室）

### 季節の変わり目の衣替えもアトピー性皮膚炎に影響します。

アトピー性皮膚炎が悪くなる要因は一つではなく、複数あります。そして、その要因は患者さんによって、それぞれ違います。例えば、PM2.5や黄砂に影響を受ける患者さんであれば、お正月など、急激に生活や食事、睡眠のリズムが変わる時期に悪化する患者さんもいます。私が多いなと感じるのは、衣替えの季節にアトピー性皮膚炎が悪化してしまう患者さんです。みなさん、衣替えのために今まで押入れやタンスにしまっていた衣類を出しますよね。衣類は長い期間、置いておくとほこりがたまったり、ダニの死骸なども付くことがあります。そうすると、抗原に対する曝露量が一気に増え、皮膚の状態を悪化させてしまうのです。タンスにしまう前に洗濯やクリーニングをしてあったとしても、保管している間にダニやカビ、花粉、様々な化学物質などが衣類に付着するため、衣替えのために衣類を出した時は、まず洗濯しましょう。しまっている衣類を出す時にも、窓を開けて部屋の換気をする、マスクをつけるなど、衣類に付いているほこりやダニにも注意が必要です。



近畿大学 医学部 皮膚科学教室  
柳原 茂人 先生

関西医科大学医学部卒業。大阪市立大学（研究医）、鳥取大学（助教）を経て、2017年4月より現職。自らもアトピー性皮膚炎に苦しんだ経験から、皮膚科医を志す。患者視点を活かした治療、ケアの提案ができる皮膚科医として多くの患者さんから信頼されている。



## コミュニケーションカード



「仕事」について。  
先生とどんなことを話したいですか？

当てはまるものにチェックをして下さい。

- 大切な打ち合わせやプレゼン中に、  
掻きたくなる衝動にかられるのではないかと不安
- かゆくて仕事の効率が上がらない
- とにかくかゆくて夜眠れず、毎朝出勤意欲がわからない

日常生活でこのほかに悩んでいることがあったら、  
ここに書いて先生に伝えましょう。

(例) ・3週間後に大事なプレゼンがある ・1ヵ月後に重要な商談がある など

こちらに記載した情報は、データとして蓄積されることはありません。

アレルギーiでは、  
様々なテーマについて医師とコミュニケーションをとるための  
サポートカードが掲載されています。

<http://www.allergy-i.jp/>